

平成30年度県立高等学校入学者選抜学力検査 社 会

■ねらい、出題の内容

1 地理的分野の問題

【ねらい】地図、グラフ、表などの資料から有用な情報を適切に選択し、効果的に活用する技能をみることをねらいとする。

【出題の内容】(1) 南半球の地図から大陸の分布や位置を読み取る問題。(2) 歴史的な特徴や言語、産業、自然環境、そして人々の生活などから四つの国の特徴について思考・判断する問題。(3) 雨温図から四つの国の位置や気温、降水量の特徴について思考・判断する問題。(4) 四つの国の自然環境や農業、鉱工業などの産業の特徴について思考・判断する問題。(5) ブラジルの森林減少と牛肉の生産量増加のグラフから、産業の発達と環境問題の関連について思考・判断・表現する問題。(6) 北半球と南半球の地図を組み合わせながら、経度差をもとに時差を求める、思考・判断する問題。

2 地理的分野の問題

【ねらい】中部地方を題材として、基礎的・基本的な知識や理解の定着をみるとともに、資料から読み取った情報を根拠として、思考・判断したことを表現する力をみることをねらいとする。

【出題の内容】(1) 日本アルプスの位置を問うことを通して、日本の地形の基礎的知識・理解を問う問題。(2) 中部地方が早くから日本の工業の中心地の一つとなったことや、歴史的な事象が起きた場所についても確認する、地図を活用した問題。(3) 石川県の伝統的工芸品に関する基礎的知識・理解を問う問題。(4) 中部地方の気候や、都市との距離などの関係から、五つの県の農業の特色について思考・判断する問題。(5) 静岡市の製造品出荷額の表からその割合を求めて帯グラフを完成させる思考・判断・表現する問題。(6) 日本最大の中京工業地帯を支えている名古屋港の貿易の形態や、名古屋港に関する資料を活用して、その特徴について思考・判断・表現する問題。

3 歴史的分野の問題

【ねらい】朝貢や交易、対立、友好など、日本と中国との間の関係が時代とともに変化してきた歴史について着目して、様々な資料を活用し、思考・判断する力をみることをねらいとする。

【出題の内容】(1) 地形図から、中国との関係に加えて日本国内の統治の様子を読みとり、思考・判断する問題。(2) 日本で起きたできごとと、その当時の中国を支配した王朝との関係について思考・判断する問題。(3) 邪馬台国の女王の名前について基礎的知識・理解を問う問題。(4) 奈良時代の文化について、その文化を代表する資料をもとに思考・判断する問題。(5) 日本と中国に関する歴史的な事象について、時代背景と関連させながら思考・判断し、並びかえたり、表現する問題。(6) 日中戦争のころの中国の国内の状況について基礎的知識・理解を問う問題。(7) 日本と中国との間に結ばれた条約について基礎的知識・理解を問う問題。

4 歴史的分野の問題

【ねらい】福島県にゆかりのある人物や文化財、できごとをもとに、古代～現代までの日本と世界の歴史を概観し、多面的・多角的に考察したことを適切に表現する力をみることをねらいとする。

【出題の内容】(1) 最澄が開いた仏教の宗派に関する基礎的知識・理解を問う問題。また、日本の戦国時代のころに、世界で起きたできごとについて思考・判断する問題。(2) 大久保利通などが関係した日本の近代化についての基礎的知識・理解を問う問題と、近代国家形成の流れを思考・判断して並べかえる問題。また、私たちの身近な地域で起きた歴史的な事象と、日本や世界で起きたできごとを関連させて、思考・判断・表現する問題。(3) 歴史的な事象がどこで起きたのか、地図と関連させて思考・判断する問題。また、高度経済成長期の日本の様子について思考・判断する問題。

5 公民的分野の問題

【ねらい】現代の経済活動の特色やその課題の解決に向けた取り組みなどに関する基礎的知識・理解と、資料から得られる情報を有効に活用して多面的・多角的に考察する力をみることをねらいとする。

【出題の内容】(1) 需要量と供給量、価格が市場に与える影響について思考・判断する問題。(2) 企業の自由な競争を促すために設置された機関に関する基礎的な知識・理解を問う問題。(3) クーリング・オフ制度に関して思考・判断する問題。(4) 消費税額の財源としての特徴について、グラフを活用して、思考・判断・表現する問題。(5) 企業などによる貧困問題の解決に向けた取り組みについて思考・判断する問題。(6) 円高や円安が私たちの暮らしに与える影響について思考・判断する問題。

6 公民的分野の問題

【ねらい】自由権や選挙、裁判など国民の権利をテーマとして、基礎的知識・理解をもとに資料を適切に活用して、思考・判断し、表現する力をみることをねらいとする。

【出題の内容】(1)公共の福祉についての基礎的知識・理解を問う問題。(2)自由権の内容の違いについての基礎的知識・理解を問う問題。(3)日本の選挙制度について定めた法律を問う問題。また、参議院議員選挙が定期的に行われている理由について、衆議院との違いに触れながら、思考・判断・表現する問題。(4)日本の裁判に関して、思考・判断する問題。また、資料を活用して、欧米諸国と比較した日本の国民一人あたりの弁護士数について思考・判断し、表現する問題。

■今後の学習指導のために

各大問とも、設定された課題やテーマを軸に、基礎的な知識・理解に基づき、様々な資料を活用しながら思考・判断したことを表現する力をみることを大きなねらいとしている。このことは、学習指導要領において、知識・理解を有機的に結びつけ、社会的な課題に対処し、解決していく力を育むことを重視していることによるところが大きい。そのためにも、単元を通したねらいと明確な評価規準を設定し、生徒の主体的な活動を重視した学習指導を行う中で、基礎的な知識・理解の着実な定着を図るとともに、資料の適切な活用を通し、思考・判断し、表現する活動を一層充実させることが求められる。

■まとめ

上記のとおり社会科の学習指導では、身に付けた知識・理解を、社会的事象に対する課題の解決に向けて活用したり、応用したりする力を育むことが求められている。このことを受け、今年度も、全分野において、資料を活用し、思考・判断・表現することを求める問題をこれまで同様に設定している。地理的分野では、特に資料の活用能力を重視し、地図の活用をはじめ、日本や世界の地域的な特徴などについて思考・判断・表現させており、歴史的分野では、日本の歴史と世界の歴史との関連や、過去と現在を結びつけるような資料を用いて歴史を概観させた。また、公民的分野では、市場経済や消費者問題、財政、人権、選挙、裁判など、現実の社会的事象を通して、思考・判断し、表現させる設問を取り入れた。

■正解（次頁）

■正答率・部分正答率（％）

社 会	番 号	大 小	1						2						
			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	
			①		②										①
			85.1	65.1	77.2	60.7	54.4	37.7	91.7	55.3	47.6	37.9	40.8	60.3	48.0
							16.0						5.0		22.6

3									4						
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		(6)		(7)	(1)		(2)			(3)	
①		②		X	Y			①		②		③	①	②	
53.7	37.3	82.5	32.2	41.9	27.6	27.6	57.9	44.5	65.6	57.0	44.3	29.2	34.2	60.3	56.6
													9.2		

5							6					
(1)	(2)	(3)	(4)		(5)	(6)	(1)	(2)	(3)		(4)	
①		②						①		②		
46.1	60.1	62.5	25.4	23.5	94.1	55.3	43.6	39.5	30.3	18.0	63.4	14.7
			18.0							23.7		12.9

問題		正 解
大	小	
1	(1)	南極 (大陸)
	(2)	D
	(3)	E
	(4)	F
	(5)	肉牛を飼育する牧場を開発するために、森林を切りひらいてきたから。
	(6)	W
2	(1)	日本アルプス
	(2)	ウ
	(3)	ア
	(4)	E
(5)	<p>加工貿易</p> <p>名古屋港の貿易黒字額はおおよそ6兆円であり、その貿易黒字額の大きさは5港の中で第1位となっている。</p>	
3	(1)	C
	(2)	オ
	(3)	単弥呼
	(4)	E
	(5)	イ → ア → E → ウ
	(6)	X 中国国民党 (国民党)
	(7)	Y 毛沢東 日中平和友好条約

問題		正 解
大	小	
4	(1)	イ
	(2)	ア
	(3)	ウ → ア → イ → E
	(4)	殖産興業
	(5)	社会主義の革命の拡大を防ぐため、シベリア出兵
	(6)	イ
5	(1)	ウ
	(2)	公正取引委員会
	(3)	ウ
	(4)	① 消費税の税率が引き上げられたから。 ② 消費税は、法人税と比較して、景気の影響を受けにくく、安定した税収が得られる財源である。
	(5)	ア
	(6)	ウ
6	(1)	公共の福祉
	(2)	イ
	(3)	① 公職選挙法 ② 参議院は、衆議院と異なり、解散がなく、3年ごとに議員の半数が改選されるから。
	(4)	① ウ ② 他の3か国と比較すると、日本の国民1人あたりの弁護士数は少ないが、その数は増加している。